



年頭所感

— 「壬寅」年の悠然な決断を 活かした展開を目指して —

大阪大学工業会会長 豊田 政 男

令和4年の年初にあたり謹んでご祝詞申し上げます。大阪大学工業会会員の皆様にとって本年も多幸な年となることを祈念申し上げます。

100年を超える歴史ある大阪大学工業会の会長を昨年6月に拝命し、初めての新年のご挨拶を申し上げます。100年は実に長い年月です。論語では100歳の記述はありませんが、人生100年時代に当てはめれば、論語の70歳の「従心」に当たるでしょうか。この年になると道を踏み外すことが無くなるそうです。ただ、同窓会という組織は、100年たっても、毎年新しく卒業した会員が入ってくる組織であり、後述のように、なかなか従心とはいかない課題を抱えています。

昨年を振り返ると、未だかつて経験したことのない世界的パンデミックに翻弄された一年で、そのグローバル規模の衝撃により世界は一変し、その影響もあって大阪大学大学院工学研究科・工学部の同窓会組織である大阪大学工業会も、色々な活動が阻害されましたことは誠に残念でした。ただ、このコロナ渦は色々な社会活動や経済活動に影響をもたらしましたが、別の観点からは、「日本企業の働き方改革」が、はからずもコロナ禍に背中を押される形で進でもきてもあり、ある意味、同窓生の皆様の活動現場においても変革の年となったかも知れません。

このような不確実な時代の中にあって、母校の大阪大学大学院工学研究科・工学部の教育研究活動は揺るぎなく活発に進めて頂いていること、特に優秀な人材の養成への貢献は、同窓生が活躍する産業界にも大きな期待を生むものといえます。

さて、本工業会は、母校の発展を願う同窓生の皆様のための組織でもあります。その大きな目標に対しての活動も節目を迎えており、同窓生から期待される活動へと変革を求められているともいえます。工業会は、同窓生の交流の場としての学科横断的組織であると共に、母校における教育研究への援助及び科学技術に関する調査・研究の援助・奨学を行うとことを活動目的に謳っており、①同窓生の交流と②母校への支援、の二つの柱を目標として活動をしてきました。ただ、時代の変化に加えコロナ渦の影響などで、今後の活動への課題が顕在化しているのも事実です。

このような状況を踏まえ、同窓生のみならず、在校生からも評価される同窓会活動を目指して、工業会理事会において企画・展望ワーキンググループを創設し、

(1) 同窓生の間、更には同窓生と在校生の交流の場を通じての評価される同窓会活動のあり方

(2) 大学での工学人材養成への同窓会の寄与のあり方
(3) 母校が目指す教育研究活動の革新化に向けてアクションプログラム

を考えるべく活動を進めて参ります。特に、交流の場として、コロナ渦でも注目されたデジタル活用でのオンライン形式の新しい交流をもたらすネットワークの創設なども企画していただいております。

工業会が皆様にどのように認識され、どのような評価を受けているかが問われますが、残念ながら、近年は卒業生で同窓会に加入いただいている割合がかなり低く、いま求められるは、在校生や若い同窓生にとって魅力ある工業会でしょう。これまでも母校若手先生方や学生さんなどへの支援、あるいは工学研究科の修士課程の学生さんの優秀な研究業績を「大阪大学工業会賞」で評価するなどを進めてきてはおりますが、評価される支援のあり方について検討を進めてまいります。また、在校生のキャリア支援活動は評価を受けてきたものの、最近の就活状況の変化やコロナ渦の影響もあって、支援のあり方にも再考を求められています。

世の中の動きは確実に変わりつつも、同窓会という組織は、ある意味、縁を持った人の集まりという古い形の集団ともいえます。その人のつながりを大いに活かしながら、若い人々にとっても価値を感じる活動が求められているといえます。

新年に当たって課題ばかりを指摘することになりましたが、「壬寅(みずのえとら)」の本年は、安定的な決断をするときでもあります。「壬」は、ゆったりと曲がりながら流れる大河の水を表しており、一方で「寅」は、決断力と才知を意味しています。この2つを併せ持つ「壬寅」は、安定しておおらかという特徴を持つ干支といわれ、壬の**悠然**さがベースに、落ち着いて**安定的な決断**ができると解釈できるといいます。この「壬寅」の年の令和4年の新年にあたり、同窓会組織としての「大阪大学工業会」の更なる活性化に向けた安定的決断への皆様のご支援を期待しております。

本年が、同窓生の皆様にとりまして御多幸で佳い年となることを、心からお祈り申し上げますとともに、母校大阪大学大学院工学研究科・工学部の更なる発展を祈念申し上げます。

(溶接 昭和42年卒 44年修士)



年頭所感

Inspiration on Campus

大阪大学大学院
工学研究科長・工学部長 馬場 口 登

2022年新春おめでとうございます。

大阪大学工業会の皆様には、平素より工学研究科・工学部の教育研究、人材育成に多大なるご支援ご理解を賜り心よりお礼申しあげます。

新型コロナウイルスが、この世の中に出現して、もうすぐ2年になろうとしています。新型コロナウイルスの感染症COVID-19パンデミックは、医療、経済、交通などに甚大な影響を与え、人間の生活・行動様式などを変えてしまいました。ようやく新型ウイルスに対する武器（ワクチン、治療法、治療薬など）が出そろい、このパンデミックを克服し、新たな世界観を展望する時点に立ったような気がいたします。

さて、工学研究科長／工学部長の職務上、様々なスピーチや小文を依頼されることが多くなりました。いつものように対応すればいいのか悩むことが多いのですが、工学研究科／工学部の125年に及ぶ歴史と発展を回顧するといくつもの知見や発見が得られます。ここでは、5つの「I」と「on Campus」について最近感じたことを述べます。

第1は、「Innovation on Campus」です。工学部の創始は、1886年の官立大阪工業学校ですが、それから約40年を経た1929年の大阪工業大学発足時は、機械、化学、電気、醸造、冶金、造船の6学科の構成でした。機械、電気、化学はどこの工学部でも、最も歴史ある学科として歩んできましたが、本学部の特色は、醸造、冶金、造船という大阪の土地柄を反映した学科を有したことにあります。本学が地元経済界の寄附で誕生した経緯もあり、地場産業と阪大工学部の関係は創設当時から深かったといえます。そんな昔に、イノベーションという言葉は、なかったにせよ、地場産業と共に発展成長してきたのが本学部です。まさにInnovation on CampusのDNAは創設時から培われたものであります。

第2は「Interdiscipline on Campus」です。Interdisciplineは学際領域と訳されますが、工学部が吹田キャンパスに移ってきた頃から、工学と医学・生命科学などの境界分野の研究が一層加速してきたように感じます。私は、電気系の通信の出身ですが、研究室の先輩が医学研究科の博士学位を取得して活躍され、周りの電気や電子の研究室では、医用電子や生体信号などのキーワードで研究されていたのを思い出します。新規学術分野創成に重要

とされる学際領域の研究を50年前から展開していたのでした。

第3は、「Industry on Campus」です。このフレーズは、私の先輩研究科長である馬越佑吉先生、馬場章夫先生らのご発案と伺っています。アカデミアを表す概念であるCampusと、その対立概念であるIndustryをonという前置詞で結び付けた素晴らしいフレーズです。このコンパクトなフレーズは、今や、阪大そのものを象徴的に表現するものとして知られています。2006年に考案された共同研究講座は阪大発の新しい産学連携のフレームワークとして全国に浸透し、さらにその発展形態の協働研究所が構築されました。現在は工学研究科だけで30近く設置され、産学連携の核となっています。阪大は、大型共同研究（民間企業からの1千万円以上のもの）の受入額において2年連続日本一となりましたが、共研群（協働研究所と共同研究講座）がこの成果に大きく貢献しています。

第4は、「Internship on Campus」です。これは学内にある共研群を利用して企業インターンシップを実施することを表すフレーズです。共研群は研究面を中心にして15年近く活動してきたわけですが、教育面でも共研群が参画するように進化し、大学院の産官学連携コースはすべての専攻に設置されています。この枠組作りには、ビジネスエンジニアリング専攻が大きな役割を果たしました。また、電気電子情報通信工学専攻のイノベーションデザインコースでは、企業のマネジメント層にも教育に参加して頂いております。

最後は、「Inspiration on Campus」です。令和2年度に工学研究科にテクノアリーナという新たな教育研究体制の運用を開始しました。最先端研究拠点部門、インキュベーション部門、若手卓越支援部門から成り、各部門の特性を活かしつつ工学研究科の研究力を引き上げるべく精励しています。私は今後の工学研究科の発展戦略、ブランディングの核にテクノアリーナを想定しています。テクノアリーナと共研群は、他学にはない本研究科の卓抜した強みであります。さらに専攻や学生が加わり、思いもなかったひらめきや想像力を育む、Inspiration on Campusによって、すべての構成員、構成組織が絶え間なく響き合いスパイラルアップしていくことを願ってやみません。

（通信 昭和54年卒 56年前期）

年頭のご挨拶

大阪支部長 吉田敏臣

新年あけましておめでとうございます。大阪大学工業会会員、大阪大学工学部卒業生、同研究科修了生ならびに関係の皆様には、それぞれ新しいタイプの生活状況の中でありながら、ご清祥にて新年をお迎えになられたことおよろこび申し上げます。

大阪大学では、大阪の産業界の強い要望のもと明治29年(1896)大阪市北区玉江町に開校した大阪工業学校から始まる大阪大学工学部は、産業界との協力活動を推進しつつ発展してきました。大阪大学工業会は、1919年設立の「大阪工業倶楽部」に始まる工学部同窓会として、同窓生の親睦を深め、母校大阪大学発展に貢献してまいりました。

ここで大阪大学の工学部と大学院工学研究科の現況をまとめてみます。大阪大学工学部は、ユニークな新規コースを開設し、現在以下の5学科編成で毎年820名もの入学者を迎え入れています。

- 応用自然科学科(47研究室)：応用化学科目、バイオテクノロジー学科目、物理工学科目、応用物理学科目
- 応用理工学科(72研究室)：機械工学科目・機械工学コース、マテリアル生産科科目・マテリアル科学コース、マテリアル生産科学科目・生産科学コース
- 電子情報工学科(44研究室)：電気電子工学科目・電気工学コース、同科目量子情報エレクトロニクスコース、情報通信工学科目・通信工学コース、同科目情報システム工学コース
- 環境・エネルギー工学科(20研究室)：環境工学コース、エネルギー量子工学コース
- 地球総合工学科(22研究室)：船舶海洋工学科目、社会基盤工学科目、建築工学科目

大学院工学研究科は、大学院重点化の大改革を経て、9専攻(生物工学、応用化学、物理学系、機械工学、マテリアル生産科学、電気電子情報通信工学、環境エネルギー工学、地球総合工学、ビジネスエンジニアリング)となり、前期課程には800名以上の学生を受け入れ、後期課程には50ヶ国を超える海外からの留学生も加わっています。

この改革のポイントは、全教官を大学院所属とし、大学院での教育、研究をより充実させることにあります。現在工学研究科では200を超える研究室で、学部と大学院の教育を行うとともに最先端の研究をすすめています。殊に本学工学部のユニークな活動として、イノベーション創出機関のテクノアリーナが推進するIndustry on Campusの開発、国際交流推進センターの留学生への支援や日本人学生の海外飛躍への協力、先進専攻の英語による授業やダブルディグリープログラムなどの国際協力活動などがあげられます。

工業会会員、工学部卒業生、関係者の皆様には、さらに大阪大学との連携を深めこれまで培われた解決力を駆使して、今後もますます活躍されることを期待いたしております。

(醜醜 昭和38年卒 40年修士 43年博士)

新年のご挨拶

東京支部長 池田博昌

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご清祥にて穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。支部長をお引き受けして21年目に入ります。支部の運営に当たり会員の皆様の温かいご理解・ご協力に感謝しております。

一昨年から始まった新型コロナウイルスの感染は衰えることなく、7月には第5波を迎えることとなり、緊急事態宣言が発令され9月末まで続きました。しかし、その中でもオリンピック・パラリンピックは開催され成功裡に終えることになりました。菅政権の退陣とともに感染者数は激減し、とりあえず落ち着きを見せております。会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

大阪大学工業会東京支部は大正9年(1920年)3月に設立され、一昨年3月に創立100周年を迎えることになり、記念行事を計画しましたが、新型コロナウイルスの感染の影響で昨年秋に延期し、オンライン講演会を開催いたしました。

10年前に発足した大阪銀杏技術士会(阪大技術士会)は、着実な進展をしており、会員数は増加しており、100名を超えるまでになりました。阪大卒業生の中で技術士の資格をお持ちの方、資格取得に関心を持ちの方は会員登録を頂くと幸甚です。皆様のご理解をお願いします。

OKC東京支部の活動に関しましては、四大行事と称している「総会」「ビールの会」「秋の集い」「新年会」では最近60名程度のご参加を頂いております。しかし、昨年は新型コロナウイルスの感染にともない、一昨年と同様に総会ならびに役員会は集会形式をとりやめメール審議の形態をとることとなりました。更に「新年会」「ビールの会」は中止することになり、会員相互の顔合わせの機会が取れなくなりました。「総会」「秋の集い」では支部創立100周年記念事業としてオンライン講演会を開催いたしました。また、月例の夕方の「二日会」、昼食会としての「二水会」はいずれも一昨年3月から中止しておりましたが、「二日会」については6月からオンラインミーティングとして10名程度のメンバーで顔合わせの機会をもってあります。二日会の日の午後には実施している「囲碁同好会」も同様に昨年に引き続き中止しております。「ゴルフ同好会」については春秋と開催してきておりますが中止しました。「カラオケ同好会」ならびに例年秋に実施している「旅行同好会」も中止となりました。年末恒例となっている「大阪大学の集い in 東京」は中止となり、代わりに「大阪大学ホームカミングデイ2021～大阪大学の集い@オンライン～」が11月7日(日)に開催されました。このような寂しい状況が今年には何時平常に戻せるかが気がかりです。

四大行事には多数の参加を期待して参加者の誘致に努力するなど、6名の副支部長の絶大なご協力により活性化に努力しております。本年も支部活動のさらなる活性化に向けて引き続き取り組みますので、ご期待いただきたいと思います。東京支部の会員諸氏におかれましては、支部の各種催事に奮ってご参加いただきますよう、年頭にあたりお願い申し上げます。

(通信 昭和34年卒)